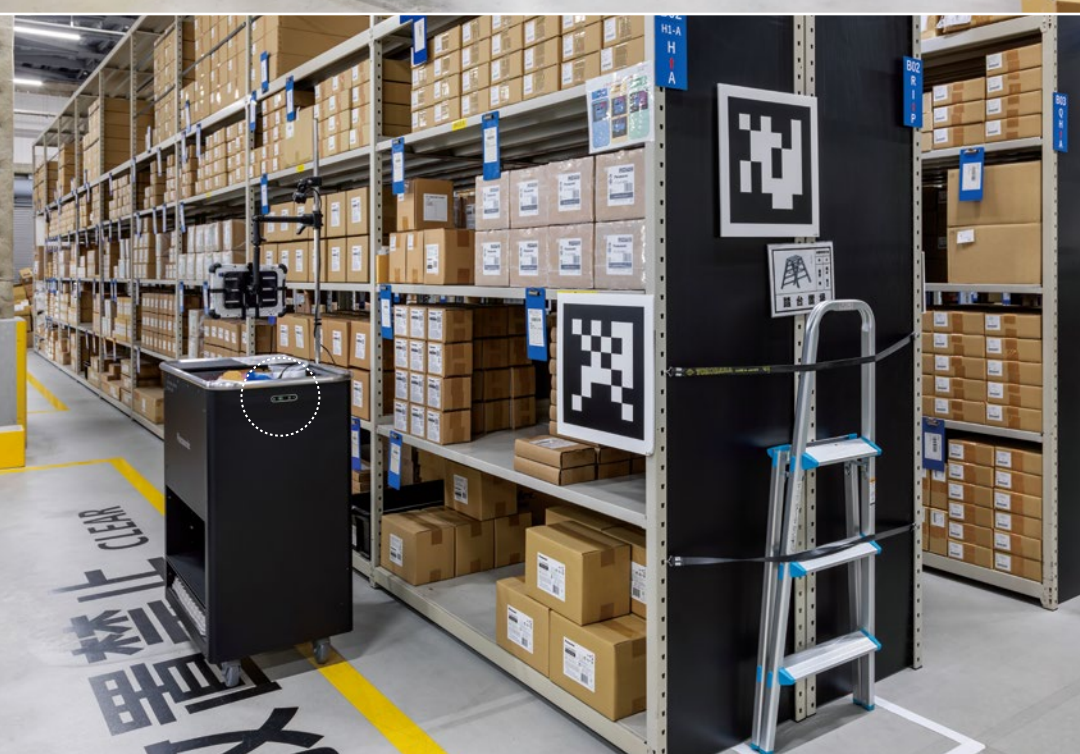




彩都サービスパーツセンター

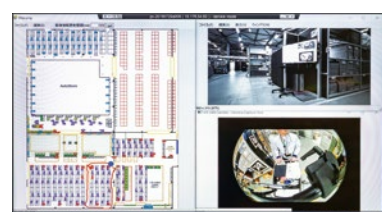
所在地／大阪府茨木市彩都(MFLP茨木6階)
 事業主／パナソニックコネク株式会社
 開設／2018年1月
 規模／延床面積:約5,000m²

©三井不動産株式会社



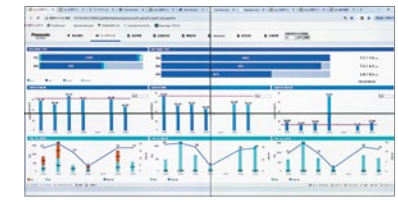
フォークリフトにも位置測定技術「V-SLAM」が搭載され、全作業を記録している

小さなパーツを保存・収集する搬送ロボット



「V-SLAM」による位置情報に移動履歴と作業動画をリンクして記録

検品作業を「AI画像処理」で作業内容ごとに分類し、映像と合わせて時間軸で記録



天井のカメラにより作業場の画像を解析し、各作業者の行動を記録

全ての作業を集約して記録し、可視化する「ダッシュボード」

生産性の向上 ピッキング工数 年率 +25% (2027-19年の3年間の平均)	コストの適正化 △10.8% (2019年に実施)	分析工数の削減 600分 →15分 (2016年→現在)
--	--	--

(上左)大阪府茨木市彩都のMFLP茨木6階にある彩都サービスパーツセンターのトラックヤード。(上右)ロボットが運んできた部品を検品する作業もカメラで全て記録している
 (下左)二次元コードを台車前方のセンサで読み取る、屋内での位置測定技術「V-SLAM」(下右)カート内の充填率をセンサとAIで計測する「積載量可視化」

パナソニック 彩都サービスパーツセンター

物流拠点の全作業データを可視化し 業務改善とDXで作業工数を削減

当施設は、パナソニックコネク株式会社が生産・販売する製品のサービスパーツ供給拠点。大型ビジョンから端末まで、主に業務用製品の補修部品を約12万品番ストック。世界26カ国に月間約3万件を出荷している。補修部品は需要予測による最適在庫が必要で、作業工程の時間短縮も課題。中でも、広大な倉庫に収められた在庫の中から指定のパーツを抜き取るピッキング、梱包、出荷までの時間短縮が課題だった。そこで導入されたテクノロジーが、「V-SLAM^{※1}」と「AI画像処理」、「積載量可視化」。そして得られた

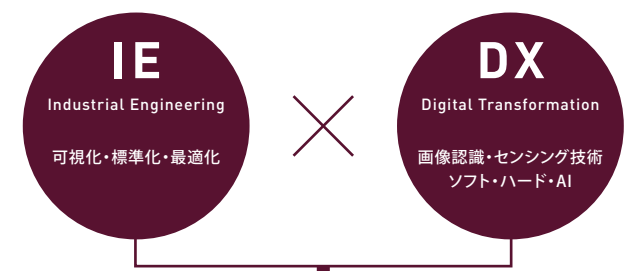
※1 Visual Simultaneous Localization and Mapping

データを可視化する「ダッシュボード」である。ピッキング台車や工場内各所にセンサやネットワークカメラを設置し、収集した位置情報や画像情報を時間軸に沿って全て記録している。これにより、庫内の全作業者の作業時間が記録され、時間や工数がかかった工程を行動レベルまで遡ることで、課題抽出が可能になった。ここでは、同社が掲げる「現場プロセスイノベーション」の物流分野における実践現場であり、2018年の稼働開始から、生産性分析の工数削減やピッキング効率の向上、コストの適正化などで成果を上げている。今後は自社実践ソリューションをSaaS^{※2}として外販していく計画である。

※2 Software as a Service: サービスとしてのソフトウェア

「現場プロセスイノベーション」の考え方

インダストリアルエンジニアリング (IE) と
デジタルトランスフォーメーション (DX) の融合により、
あるべき姿を実現すること



業務プロセス改革で、現場と経営をつなぐ